

平成 30 年度青森市社会資本整備評価委員会 会議概要

1. 開催日時

平成 30 年 10 月 4 日（木） 10:30～11:30

2. 開催場所

青森市役所本庁舎 2 階 庁議室

3. 出席者

《委員》

委員長 足達 健夫

副委員長 松野 美智子

委員 松田 英嗣、三浦一郎 計 4 名

《事務局》

都市整備部 部長 大櫛 寛之、理事 長井 道隆、次長 岡山 幸司

都市整備部都市政策課 課長 坂牛 裕、副参事 遠嶋 祥剛 外 2 名

《案件担当課》

環境部下水道整備課 副参事 松尾 剛、副参事 奈良 信人 外 1 名

4. 審議案件

《公共事業再評価》

- ・ 案件第 1 号「青森市公共下水道事業（八重田処理区）」
- ・ 案件第 2 号「青森市公共下水道事業（新田処理区）」

5. 案件資料

- ・ 案件第 1～2 号 公共事業再評価調書
- ・ 案件第 1～2 号 説明資料

6. 会議概要

公共事業再評価について案件第 1～2 号の審議を行ったが、特に異論はなかった。

案件第 1～2 号の説明、審議は内容に関連があることから一括して行い、採決は 1 件ずつ行った。

以下、主な意見、質疑応答の内容。

発 言 者	内 容
委 員	公共下水道事業におけるコスト削減について、省エネルギー対応の機材の導入を行っているということであるが、どのようなタイミングで導入しているのか。
下水道整備課	耐用年数を経過した場合と、設備を新設する際に導入している。
委 員	ガス発電設備で発電した電力は、売電しているのか。
下水道整備課	新田浄化センターについては、発電した電力を処理場内の電力として使用することで電気料の削減を行っている。八重田浄化センターについては、処理時に発生するガスを燃焼させていたが、現在は、民間事業者が市から供給されたガスで発電を行い、電力会社に売電している。
委 員	売電していることは、便益に含めないのか。
下水道整備課	費用便益マニュアルにしたがって含めていない。
委 員	浄化槽を使用している方がまだまだ多いように感じられるがどうか。
下水道整備課	現在、市全体での下水道水洗化率は約 88% となっており、市として、下水道の普及向上に向けて PR 活動、毎戸訪問、チラシ配布等の活動を行っている。
委 員	下水道事業について、市民の方から要望等はあるのか。
下水道整備課	新田処理区で未整備の地区がある西部地区からは、下水道整備について強い要望をいただいている。
委 員	浄化槽を廃棄し、下水道に接続する際に費用がかかるが、市の補助等はあるのか。
下水道整備課	下水道に接続する方が、その費用を金融機関から借入れた際、市が利子分を補助する制度がある。
委 員	下水道が整備済であるのに、浄化槽を使用している方もいることから、下水道への接続の必要性について、広く周知する必要があると考える。